

| 番号 | 3 | | 平成27年度公共事業再評価調書 | | | 担当課名 | 河川海岸整備課 |
|------------------------------|---|-------------------------------------|-----------------|-----------------|---------|-------|---------|
| 事業名 | 総合流域防災事業 | | | 事業主体 | 静岡県 | | |
| 箇所名 | 一級河川 <small>さかいがわ</small> 境川 | | | 関係市町村 | 三島市・清水町 | | |
| 事業採択年度 | 昭和48年度 | | 計画期間 | 昭和48年度 ~ 平成36年度 | | | |
| 用地着手年度 | 昭和61年度 | | 工事着手年度 | 昭和48年度 | | | |
| 再評価理由※ | 再評価実施 (H22) 後5年経過 | | | | | | |
| 全体事業費 | 百万円 | 投資状況 (百万円) | ~H25年度 | H26年度 | H27年度見込 | 計 | |
| | 3,749 | | 2,525 | 80 | 70 | 2,675 | |
| 事業概要 | <p>(1) 事業目的 河道拡幅、掘削、護岸整備、著しい屈曲部の解消、橋梁の改築などの河川改修により、狩野川台風以降で最大の被害が発生した昭和49年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、被害の軽減を図る。</p> <p>(2) 事業内容 ○事業計画 ・河川改修 延長2,920m (引堤護岸工、河川法線是正)、橋梁工11橋</p> | | | | | | |
| 【視点1】 | <p>(1) 事業を巡る社会情勢等の変化 境川は、三島市と清水町の境界を蛇行しながら流下し、川沿いには古くから集落が形成され周辺地域では宅地化が進んでいる。上流域の市街化に伴う流出量の増大や近年の気候変動による局地豪雨の頻発及び台風の大型化により、事業採択時と比べて水害の発生した場合の危険度は増しており、地元の事業に対する要望は強く、当該事業に対する期待度は極めて高い。また、平成26年10月には三島市玉川地区や新橋付近で6件の浸水被害が発生しており、早期の改修が望まれている。</p> | | | | | | |
| 事業の必要性 | <p>(2) 事業の投資効果 $B/C = 3,501 \text{百万円} / 1,383 \text{百万円} = 2.53$</p> <p>(3) 事業の進捗状況 下流から順次事業を進め、平成26年度までに延長2,440mの改修を完了した。これまでに、5箇所の著しい屈曲部の河道整正、支障となる橋梁9橋の改築を実施し、洪水流下能力が大きく改善された。</p> <p>平成27年度末進捗率 事業費：71.4% (2,675百万円/3,749百万円) 事業量：83.6% (2,440m/2,920m)</p> | | | | | | |
| | 評価 | 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない | | | | | |
| 【視点2】 今後の事業の進捗の見込み | <p>三島市と清水町の行政界を流れる河川であり、両市町民共に事業に協力的で、事業用地の取得も円滑に進んでおり、約90%の用地買収が終了している。平成27年度から最後のショートカット区間の施工を実施し、早期の効果発現を図る。</p> | | | | | | |
| | 評価 | 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない | | | | | |
| 【視点3】 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 | <p>屈曲部の改修では、事業用地と廃川予定地を交換することで用地取得費用を削減することや、発生土を近隣の公共事業に利用し、コスト削減を図る。</p> | | | | | | |
| 対応方針案 | <p>(1) 対応方針案 本事業を (継続) ・ 見直し後継続 ・ 中止) する。</p> <p>(2) 理由 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められ、地域住民の改修への期待は非常に大きい。浸水被害を解消するため事業継続とする。</p> | | | | | | |

※「再評価理由」は、静岡県交通基盤部、くらし・環境部所管公共事業再評価実施要綱第2に規定する区分に従って記載する。

費用対効果算出説明書

一級河川 境川

（「治水経済調査マニュアル（案）」建設省河川局 平成17年4月）

総括表

| | | |
|-------|---|---------|
| 総便益 B | [治水事業を実施しない場合の被害額] - [治水事業を実施した場合の被害額] + [施設等の残存価値] | 35.01億円 |
| 総費用 C | [事業建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費] | 13.83億円 |
| B / C | | 2.53 |

総便益

[治水事業を実施しない場合の被害額] - [治水事業を実施した場合の被害額] + [施設の残存価値]

年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間60年（整備期間10年 + 50年）とし、現在価値化する。

施設等残存価値：0.83億円

総便益

$$B = \text{年平均被害軽減期待額} / (1 + 0.04)^n + \text{施設残存価値}$$

$$= 35.01 \text{ 億円 (年平均被害軽減期待額：34.18億円 + 施設残存価値0.83億円)}$$

年平均被害軽減額：洪水の生起確率を被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

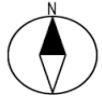
総費用

建設費：9.65 億円、維持管理費 4.18 億円：事業費の0.05%

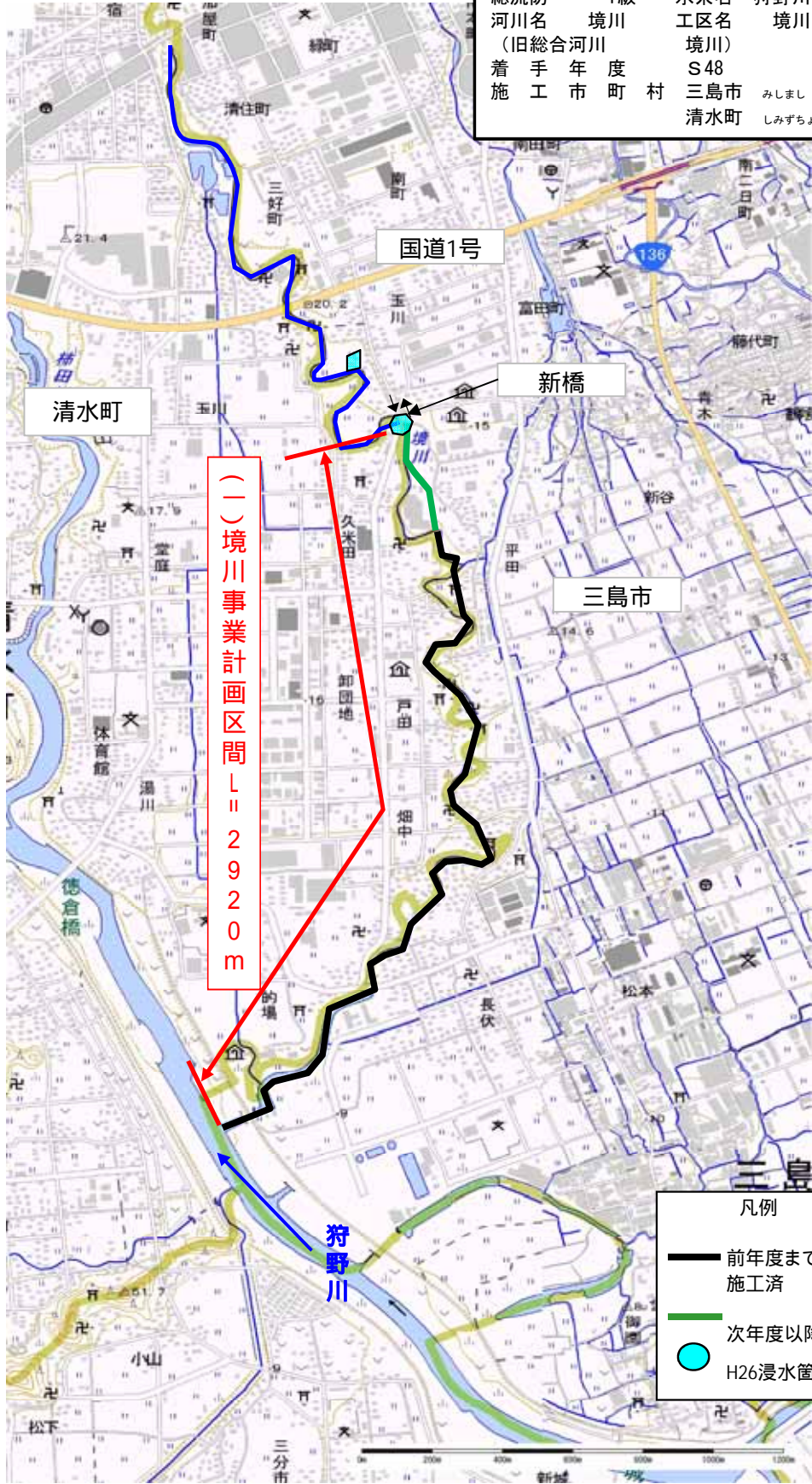
評価対象期間：60年

$$\text{費用計} = \text{建設費} + \text{年間維持管理費} / (1 + 0.04)^n$$

$$= 13.83 \text{ 億円 (建設費：9.65億円 + 維持管理費：4.18億円)}$$



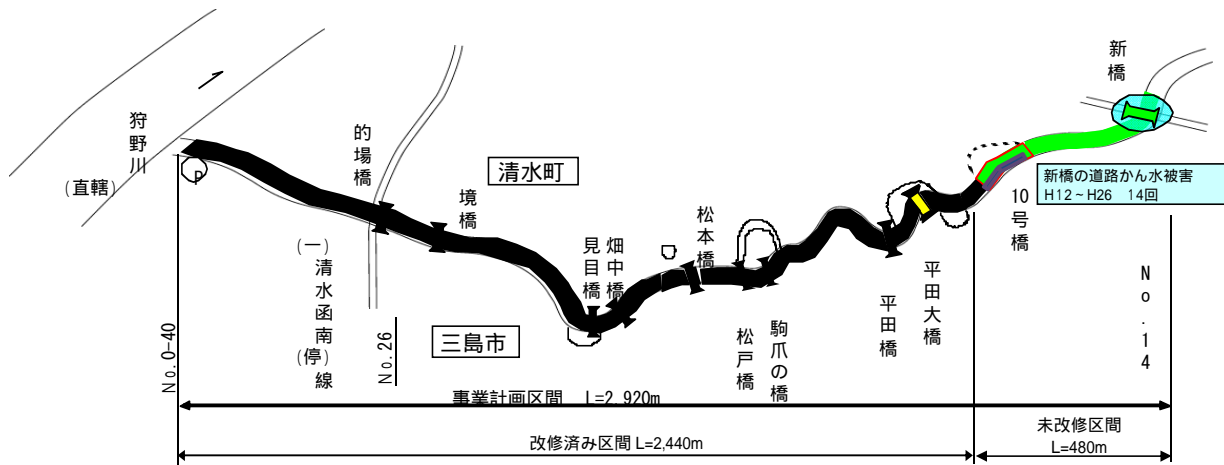
| | | | |
|--------|----|-----|--------|
| 総流防 | 1級 | 水系名 | 狩野川 |
| 河川名 | 境川 | 工区名 | 境川 |
| (旧総合河川 | | | 境川) |
| 着手年度 | | | S48 |
| 施工市町村 | | 三島市 | みしまし |
| | | 清水町 | しみずちょう |



(一) 境川事業計画区間 L=2920m

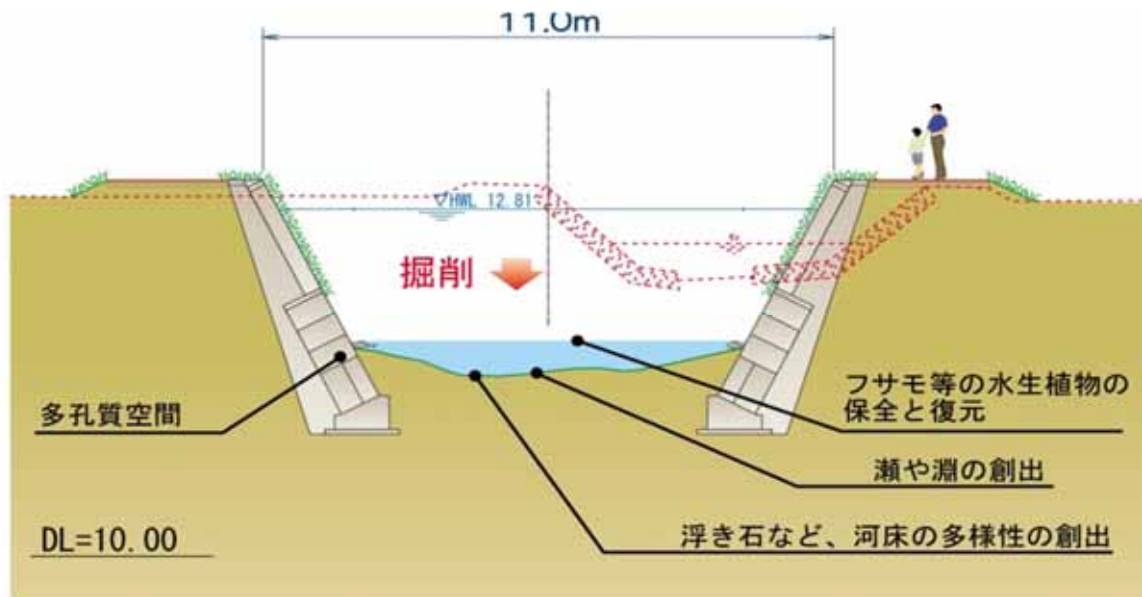
| | |
|----|----------|
| 凡例 | |
| | 前年度まで施工済 |
| | 次年度以降 |
| | H26浸水箇所 |

概略平面図

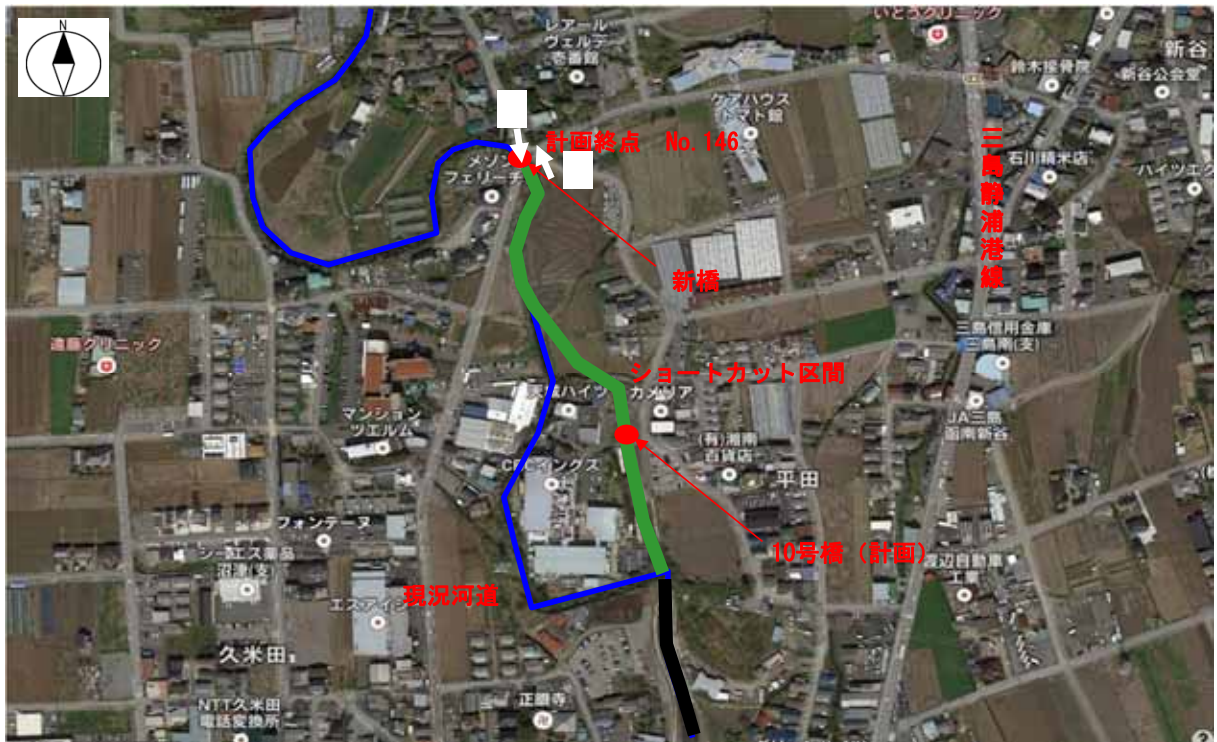


| 凡例 | |
|------------|----|
| 改修済み区間 | 黒色 |
| H27実施区間 | 赤色 |
| 未改修区間 | 緑色 |
| 浸水区域 (H26) | 青色 |

標準断面図



境川 航空写真 上流区間



平成26年台風18号浸水状況(新橋付近)

改修区間の現況写真



2.3K付近



2.4K付近

未改修区間の現況写真



2.9K付近



2.9K付近